

WIND RIVER

Wind River Linux 4

Wind River Linux は、市場をリードする商用組込 Linux 開発プラットフォームであり、リスクを排除したオープンソースソフトウェアの利点を製品開発者にもたらした初めての製品です。組込用に構築された Wind River Linux は、製品ベンダーが、迅速かつ費用対効果を上げながら高度に差別化された製品を開発、テスト、およびサポートする為に必要なすべてのコンポーネントを、構築、統合、検証してご提供します。

Linux 2.6.34+カーネルと、gcc 4.4.1/eglibc 2.11/gdb 7のツールチェーンをベースにしたWind River Linux 4は、最新の技術と最大級の安定性をお客様にお届けします。Wind River Linux 4は、幅広い組込ハードウェアアーキテクチャをサポートし、カーネルベースのKVMから、最新のマルチプロセッサでイノベーションを実現するWind River Hypervisorまで、業界一多様な、仮想化およびマルチコアオフロード機能をご提供します。

完全なプラットフォームがもたらすイノベーション

Wind River Linuxは、最もフレキシブルなOS上で、高性能製品の開発に必要なすべてのものをご提供します。何百ものオープンソースパッケージから選択することで、初日から開発を始めることができ、主な組込アーキテクチャをすべてサポートする、業界一のハードウェアサポートを活用することができます。完璧にテストされ、完全にサポートされたオープンソースコード上に構築することで、元となっているオープンソースから、パッチ、パッケージ、または独自のコードなどの追加によるすべての修正事項に至るまで、お客様の製品のシステムを完全にトレースすることができます。この透明性は、テスト、デバッグ、およびライセンスドキュメントの作成、または製品の改修時には、計り知れない利点となります。

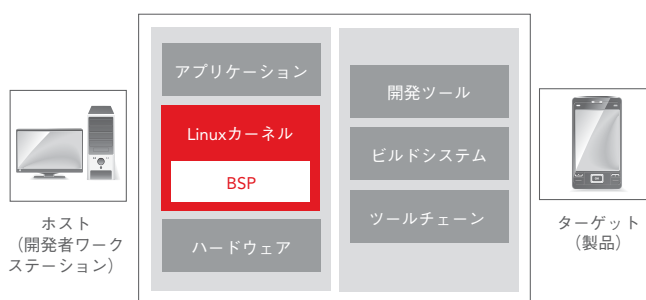
事前にコンフィギュレーションされた プロファイルが市場投入までの時間を短縮

Wind River Linuxでは、業界や製品タイプに合わせてシステムプロファイルが事前にコンフィギュレーションされているため、開発工程をスピードアップできます。Wind River Linuxでは、使用頻度の高いパッケージを特定し、組み立て、統合してあるため、数週間から数ヶ月分の非差別化型作業（誰にでもできる作業）を省くことができ、リソースをより製品のカスタマイズに集中させることができます。

強力なビルドシステムが複雑さを軽減

カーネルおよびルートファイルシステムの簡単なインストールや修正から、組込開発特有のクロスコンパイルに至るまで、Wind Riverのオープンで直感的なビルドシステムは、時間の短縮や透明性の確保、プロジェクトやチーム内または大規模な企業間での開発パーツの保存や共有の管理に対する手法をご提供します。

Wind River Linux Distribution Assembly Tool (LDAT) は、「レイヤ」に基づいて、変更点のレビューやリバースから、パフォーマンスの問題点やバグ、不具合のすばやい対応まで、Linux開発工程の各ステップを合理化し、単純化します。



完全な組込Linux開発プラットフォーム

レイヤは単一のパッケージと同じぐらい小さい場合もあり、また1つのディストリビューションと同じぐらい複雑な場合もありため、チームはLDATを使用してワークフローを効率よく進め、重複する作業を取り除くことができます。また、レイヤは、シンプルで体系立てられた方法により、オープンソースと独自のソフトウェアを分離することもできます。

多様なツールで開発チームを強力にサポート

Wind River Linuxには、受賞歴のあるEclipseベースの開発環境、Wind River Workbenchが同梱されています。Workbenchは、開発のライフサイクル全体を通してさまざまな機能をご提供するだけでなく、マルチOSやマルチコア開発を促進し、解析やオンチップ・デバッグ等の多数の強力なツールをプラグインできます。また、Wind River Linuxはオープンソースツールに対応し、拡張も可能です。たとえば、完全なバックトレース機能をoprofileやmpatrolに追加し、組込開発に適したより強力なツールにすることができます。

Wind River Linux 4の新機能、Target Communication Frameworkは、複数のホストやターゲット間での通信を促進します。コマンドラインプログラミングを好む開発者向けにも、Wind River Linuxは多機能なツールをご提供しています。

規格準拠により品質を保証

Wind River LinuxはキャリアグレードLinux 4.0仕様として最初に公式に認証されました。Wind River Linux 4は、高可用性、サービスビリティ、およびリアルタイム性能を要件とする、次世代CGL 5.0に準じて構築されました。

さらに、Wind River Linux 4は、アプリケーションの移植性とオープンAPIを要件とする間もなく発表されるLinux Standards Base 4 (LSB)に準拠しています。また、Wind River Linuxは米国政府輸出規則を満たしています。

仮想化ソリューションで最新のハードウェアを活用

Workbenchの開発環境と、Wind River Hypervisorを通じて、Wind River Linuxユーザは、非対称型マルチプロセッシング (AMP) や対称型マルチプロセッシング (SMP)、および組込システムのマルチコア開発において、認証やリアルタイムを必要とする環境内でも、パフォーマンス、コスト、電力消費面での利点を享受することができます。

市場をリードするWind Riverのマルチコアおよび仮想化ソリューションは、主要なチップベンダとの緊密なパートナーシップ上に構築されており、Wind Riverの業界標準リアルタイムOSである、VxWorksと同様にさまざまなハードウェアアーキテクチャに対して最適化されています。Wind River Linux 4は、Linux 2.6.34カーネルのKernel Virtual Machine (KVM) 機能をサポートしています。

商用プラットフォームでリスクを緩和

Wind River Linuxは、厳密なテストやメンテナンス、サポート、サービス、法律関係のリソース、そしてパートナーからの支援によって、商用グレード、エンタープライズでも使用可能な製品となっています。

- **テスト**：Wind Riverは、独自のテクノロジーにも、オープンソースベースのテクノロジーにも高品質な製品をご提供することに尽力しています。ウインドリバーの品質ポリシーには、正式なコード検査、ピア評価、プロジェクト評価、プログラム評価、およびトレース可能な要求変更管理が含まれます。Wind River Linuxは、サポートされている基準のコンフィグレーション（開発ホスト、カーネル、およびパッケージの設定や、サポートされるボードによって定義される）上の主な機能を完全にテストする、体系的なプロセスに従って開発されました。Wind River Linux 4は、300,000回の自動テストランを経て、リリースされました。
- **メンテナンス**：Wind River Linux開発チームにとって、メンテナンスは、オープンソースコミュニティの最新動向に合わせるだけのものではありません。メンテナンスは、常に進化し、密接に結びつく市場内で安全な製品を維持することなのです。ウインドリバーでは、専任エンジニアで構成されたチームが、Linuxコミュニティや政府機関、その他世界中の機関から毎年発行される何千ものセキュリティアラートを監視し、対処しています。さらに、最新のバッチ、サービスパック、および更新によってお客様のプロジェクトや製品が常に最新の状態に保たれるようにしています。
- **カスタマーサポート**：Wind River Linuxでは、認定を取得した、受賞歴のあるサポートチームが、24時間体制のグローバルなサポートを、現地の言語でご提供しています。
- **プロフェッショナルサービス**：CMMIレベル3を取得した組織である、ウインドリバープロフェッショナルサービスでは、リスクを削減し、お客様が製品設計の差別化や付加価値向上のための開発作業に専念できるよう、Linuxの受託開発をご提供しています。ウインドリバープロフェッショナルサービスのチームが、ハードウェアやその他のカスタマイズ、市場投入の加速化、および作業力強化をWind River Linuxをお使いの企業に対してご提供しています。
- **ライセンス管理**：ウインドリバーでは、General Public License (GPL) やWind River Linuxの各主要リリースに関連のあるその他のライセンスを、編集や文書作成時に徹底した法的レビューを行います。法律の専門家と独自の自動化ツールを組み合わせ、製品に含まれる各オープンソースパッケージを確認し、リリース前に、知的財産に関する問題点を識別、および解決します。知的財産の保護に役立つ広範囲に及ぶドキュメントをお客様にお届けしています。

ウインドリバーは組み込みソフトウェアとモバイルソフトウェアのリーディングカンパニーです。

企業がデバイスソフトウェアを、より早く高品質かつ低コスト、かつ高信頼性で開発、運用、管理することを可能にします。

WIND RIVER ウインドリバー株式会社

東京本社
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー
TEL.03-5778-6001 (代表)

大阪営業所
〒532-0011 大阪市淀川区西中島 7-5-25 新大阪ダイビル
TEL.06-6100-5760 (代表)

www.windriver.co.jp

© 2010 Wind River Systems, Inc. Wind River, Wind Riverロゴ、VxWorksは、Wind River Systems, Inc.の登録商標または商標です。記載されているすべての名称は、各社の登録商標、商標またはサービスマークです。詳細についてはこちらをご覧ください。www.windriver.com/company/terms/trademark.html. (2010年10月改訂)

- **パートナーエコシステム**：ウインドリバーのパートナーエコシステムは、当社のコアテクノロジーと、当社のソリューションを構築するために選定した主なハードウェア、ソフトウェア企業のテクノロジーとの間で、強力なインテグレーションをお約束するものです。ウインドリバーのパートナーは、すぐに使用可能なインテグレーションとサポートをご提供することで、Wind River Linuxの機能を拡張します。当社は、ウインドリバー製品を使用する上で、パートナーに生じる技術的な問題を解決するようトレーニングされています。
- **幅広いハードウェアサポート**：Wind River Linux 4は、MIPS、MIPS64、ARM、x86、x86-64、およびPowerPCを含む、あらゆる種類の組込アーキテクチャ上で動作します。また、60以上のボード・サポート・パッケージ (BSP) を使用可能です。

Wind River Linux 4の新機能

カーネル

- KVMパラバーチャライゼーションデバイスドライバ (x86)
- perf/trace-cmd (ftrace)
- ユーザースペーストレースポイント
- kdb
- 非同期にリリースされるBSPの自動バッチ

パッケージ

- 95個の新パッケージ
- 最新のオープンソースにバージョンアップされた125個のパッケージ
- 142個の改善されたパッケージ

ユーザスペース

- ワークフローを合理化するコンポーネント化
- x86 (32/640) ターゲット上でのアプリケーションコンパイル
- 標準、およびCGL準拠ランタイムライブラリ用の新しいLSBテンプレート

ツール

- 容易なパッケージデバッグ
- 多くのツールで拡張された視覚化機能、解析機能
- パッケージとしてアプリケーションをインポートする機能
- ターゲット間の通信フレームワーク (Target Communication Framework)

パワーマネジメント

- x86用PowerTOP
- カーネルに追加されたAdvanced Configuration and Power Interface (ACPI)
- ティックレスカーネル
- 低消費電力hypervisor

Wind River Linux開発者コミュニティ

- 開発者同士のサポートおよび問題解決
- リソースの共有、ユースケース、ヒントとテクニック
- ロードマップの可視性、フィードバック
- <http://developer.windriver.com/>

■販売代理店